



市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、みよし市ホームページでは「Topics(まちの話題)」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」
でイベントや行事の様子を紹介しています。 <http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/>



スポーツの祭典

第28回みよし市体育協会総合体育大会

スポーツに取り組む皆さんに大会への参加の機会を提供するとともに、スポーツの推進と体力増進を図ろうと10月27日から12月3日にかけて、第28回みよし市体育協会総合体育大会が市内の各会場で行われています。11月12日には各種目の出場選手が総合体育館に一堂に会して、総合開会式が行われました。選手を代表してソフトテニス連盟の阿部湖船くんと林姫花さんが「日ごろの練習の成果を十分に発揮し、正々堂々と戦い抜くことを誓います」と力強く宣誓。続いて、体育協会の発展に貢献した人と全国大会や県大会、東海大会などで優秀な成績を取めた選手やチームがそれぞれ表彰され、会場からは大きな拍手が送られました。式の後、6種目の競技がそれぞれの会場に分かれて行われると、選手たちは仲間たちの声援を受けながら、勝利を目指して最後まで全力で戦いました。卓球に出場した男子選手の一人は「次の試合でも、しっかりと集中して臨み、勝ち進んでいきたいです」と話していました。





地方自治の進展や教育・体育・学術芸能などの文化の振興、地方民生の安定などさまざまな分野で市政の発展や市民の福祉増進に貢献された皆さんを表彰し、市のますますの発展に寄与することを目的に11月3日、サンアートで文化の日記念式典が行われました。初めに、小野田賢治市長が「皆さまには自治、教育、福祉、産業などの各分野において『ふるさとみよし』の発展に大きく貢献していただき、その功績に対し深く敬意を表します。また、文化協会の皆さまには昭和42年から50年間にわたり、本市の文化向上の大きな一翼を担って活躍していただき、心より感謝を申し上げます」と式辞。続いて、昨年文化勲章を受章した国立遺伝学研究所名誉教授の太田朋子さんをはじめ、地方自治や教育、スポーツ、芸術などの分野で活躍した81人4団体を表彰し、これまでの活動や功績をたたえました。

みよし市の発展を願って

文化の日記念式典



サンアートを芸術で彩る

みよし市文化協会創立50周年記念 みよし市文化祭(展示作品発表・芸能発表・菊花展)



日ごろから市内で活動する文化団体に作品展示や芸能発表などの場を提供し、文化交流をより一層推進しようとみよし市文化協会が主催して毎年開催されている文化祭。今年は、文化協会創立50周年を記念し、11月2日から5日までの4日間、サンアートで開催されました。展示作品発表では、絵画や彫刻、切り絵、写真、書道、盆栽など、この日のために用意した渾身の作品の数々が展示され、来場者は気に入った作品の前で足を止めてじっくりと鑑賞していました。芸能発表では、歌謡や大正琴、和太鼓、民謡、舞踊など10団体の皆さんが出演。どの団体も、日ごろの練習の成果を存分に披露し、会場は温かい拍手に包まれました。また、菊花展ではサンアート周辺をおよそ600鉢の菊の花々が彩りました。





いきいきと楽しんで

第37回いきいきクラブ芸能発表会



芸能発表を通して会員相互の交流と親睦を深め、日々を楽しく過ごしてもらおうと11月9日、第37回いきいきクラブ芸能発表会がサンアートで行われました。開会式ではいきいきクラブみよし連合会のくのともしで久野知英会長が「出演される皆さんは、どのグループもとても気合が入っているので、ぜひ最後まで楽しんでってください。また、皆さんがもっと楽しめるクラブになるよう、今後もいきいきと活動していきたいと思います」とあいさつ。その後、いきいきクラブの活動に尽力された役員への顕彰が行われました。そしていよいよ芸能発表会が開演。合唱やフォークダンス、健康体操などが披露されると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



たくさんの温かい協力のもと

第21回あゆみ祭



しおみの丘の利用者に地域の人と交流する機会をつくるとともに、障がいのある人たちに楽しんでもらおうと11月11日、社会福祉法人あゆみ会しおみの丘で第21回あゆみ祭が開催されました。この日は利用者の家族や近隣の住民などおよそ250人が参加。また、北中学校と三好高校の生徒や東海学園大学の学生、行政区の皆さんなど、およそ150人がボランティアとして参加し、模擬店やゲームコーナーを運営しました。模擬店では、焼きそばやみたらし団子などの食べ物が販売され、中でもしおみの丘で栽培、収穫された無臭ニンニクのしょうゆ漬は販売開始後間もなく売り切れてしまうほど大人気でした。他にも、会場ではフリーマーケットが行われ、寄附を募って集めた日用品や、地域の皆さんの育てた野菜や花などが販売され、来場した人は思い思いに楽しんでいました。



歴史民俗資料館では年に4回、四季に合わせて毎年さまざまな展示会を開催しています。今秋は秋季特別展「多芸多才にして奇才 伊勢門水」と題し、狂言や絵画、狂歌などで才能を發揮した伊勢門水の作品を絵画を中心に紹介する展示会を行っています。この

展示会に合わせて11月11日、学芸員の塚本弥寿人つかもと やすひとさんによるギャラリートークが開催されました。初めに、伊勢門水は狂言師としても名高かったことや作品の多くは狂言画であったこと、絵画は独学で学んだことなどを説明。続いて、伊勢門水の絵画や著書などの作品が紹介されると、参加者たちは「この作品は粋だね」、「絵だけでなく、書かれている文字の形も独特で面白いね」と話しながら、伊勢門水の個性あふれる作品の数々を楽しみながら観賞していました。

伊勢門水の世界を紹介

秋季特別展「多芸多才にして奇才 伊勢門水」
ギャラリートーク



地域で子育てを支える

ファミリー・サポート・センター
入会説明会・心肺蘇生講習会



仕事と育児の両立支援や家庭での育児支援を目的に、子育てを手助けしてほしい人(依頼会員)と子育ての手助けをしてくれる人(援助会員)がお互いに助け合いながら活動しているファミリー・サポート・センター。その入会説明会と子どもの事故予防や心肺蘇生法について学ぶ講習会が11月16日、子育て総合支援センターで行われました。この日は新規会員の8人と依頼会員、援助会員の合わせて19人が参加。

入会説明の後、保健師から子どもの転落や誤飲、やけどなど、子どもの事故を予防するポイントが説明されました。また、尾三消防本部みよし消防署南出張所の消防士による、幼児・乳児を対象とした心肺蘇生法とAEDの使い方についての講習では、参加者は実際に人形を使って胸骨圧迫をしながら、緊急時に行う応急手当の知識を深めていました。参加した女性の一人は「子育てで大変な思いをしている人の力に少しでもなれたらうれしいです」と話していました。

